

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024		
法人名	有限会社敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の家		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域柄穏やかで静かな場所なので安心して暮らして頂いている。地域の人との繋がり。職員と利用者が仲良く家族みたいな信頼関係がある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372201024-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山県市北区岩井2丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 17 日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関の扉を開けて厳かに入ると、管理者の丁寧な挨拶を頂く。リビングを見渡すと、ゆとりを持ったレイアウトの中に、利用者が団欒のようにリビングに集まり、スタッフと掛け合い問答みたいなおしゃべりで盛り上がる光景は、幸せが満ち溢れ、居心地の良さを投げかけてきた。のびのびと生活している天真爛漫な子供のような姿が、今でも目に焼き付いている。スタッフの経験と人柄が物語っている空気があり、謙虚で素直なやっとな慣れてきた管理者を陰からバックアップし、将来に向けて、管理者の内に秘めた前向きさをさらに引き出そうとしている。堅実な社長の気持ちを汲み取り、利用者と家族の関係を更に深めていた。特に安全面に気を遣い、どこからでも直ぐ傍で見守れる体制を築きながら、ちょっとした心配りを尽くす、そんな心暖まる家族の寄り添っている環境を肌にした。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに記載し、また会議等で話す機会を設け、より理念に沿うように仕事をしている。	理念と方針はホールに掲げていて、毎日の朝礼で、創業者が理念を含んだ事柄を平易な言葉で申し送りに交えて伝えているので職員全体に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	イベントでは夏祭りや餅つき大会で交流をはかっている。日常では、日光浴に出た時や散歩に出た際あいさつをしている。	コロナにより参加していた行事は減ったが、利用者は地域の方や学童の様子を窓から毎日の様に愛でたり、手を振り合ったりして、顔の見える関係が続けている。町内会長とは声を掛け合う関係が続き、電話でのやりとりと合わせて付き合いを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区文化祭(万富公民館)に参加し出品展示見学に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用者の活動状況等を報告している。行事などへの参加、ボランティア依頼など地域に密着した活動、交流を行っている。	隔月で開催し、町内会長、民生委員、地域包括、家族が参加をしている。現在はコロナの影響もあり文章で意見交換を行っている。地域の買い出し先の有益情報や、コロナ禍での差し入れの仕方や感染予防の具体的方策の最新情報などを其々の立場から記入できる様式にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時など包括支援センター担当者に現場の状況を理解していただきアドバイス等協力を得ている。	窓口は、社長と管理者が行っていて、地域包括とは、情報交換をしたり、運営に関する相談をしたりしている。また、市の担当者とも介護保険や書類に関する事や何かあると相談して、助言や指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を中心に職員全員で研修し知識を深め、職員が対応方法を徹底し、自由な生活を支援している。会議等でも利用者の状態確認。	身体拘束はしておらず、3か月毎に拘束廃止委員会を、半年毎に勉強会を開催している。体験型会議で、職員が自ら拘束具を嵌めることで見識を深め合っている。不安感の強い方や、どうしても外に出たい利用者に対しては、納得いくまで付き添うことで、安心感を与えられるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体にできるあざ、傷を発見したとき職員で確認しあい原因等話し合い防止に努めている。家族の方に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他事業所の成年後見人の実例を聞き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時施設の方針などを話し対応可能な範囲について丁寧に時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に月一度「万富の家便り」で近況をお知らせしている。電話、面会時にコミュニケーションを図り意見を頂いている。	毎月送付している会報誌は、担当者が手書きしていて、利用者の生活の様子や健康状態、本人の言葉が書かれている。必要に応じて電話で連絡を取り合うことで、家族の意見を聞くことができている。家族の要望でソーシャルディスタンスを保つために、居室の窓から面会する事が定着しつつある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時や日頃から職員同士コミュニケーションを図り案を出し合っている。	社長や管理者が職員と互いに珈琲を片手に「今どんなんですかあ？」と語り合うことで意見を出しやすくしている。他には、lineや電話で相談を受けることもある。勤務調整や待遇面の相談については、出来るだけ早く対応するように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々を理解し職員の相談を受け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修で学びトレーニングをし資質向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の施設があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入所の方にはコミュニケーションを密にして他入居者と職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には耳を傾け入居者の状態を細かく伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと利用者の状況を確認し合い、改善に向けた必要なサービス提供に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と寄りそう時間を多くしコミュニケーションなどははかり理解しスタッフと共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し、入所者、職員の思いを家族に伝え協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方以前からの知人など施設へ面会に来られて交流ができています。	開設以来、近所の方や友達が変わらず見舞いに来ている。馴染みの場所へ行き難くなった代わりに、馴染みの人や場所の事を語り合う事を積極的に行っている。長年入居している利用者には、ホームの思い思いの場所が馴染みとなっているので過ごしやすくしている。	遠くの方を身近に感じるためにも、無理がない程度にオンライン化・デジタル化を採用してはいかかでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人を理解し過ごしやすい場所をつくり楽しんで頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て連携に心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を見出している。心身の状況の違いなど個人を尊重した介護法で対応している。	普段のちょっとしたやりとりや会話、表情やしぐさを見たり記録して職員で共有し、本人の思いや意向を把握するようにしている。「して欲しい」「欲しくない」、ことを把握して、ケアの質を上げられる様にケアプランにも表記してしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーより情報を収集し入所してからの対応を検討している。本人には今までの生活を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの性格や心身の状況にあわせ無理のない生活を送って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体、精神状態を話し合い、家族と職員と相談して最適な計画で実践している。	入居時にアセスメントをし、毎月全員のモニタリングを実施している。また、状況や体調に応じて個別対応している。本人の言葉をそのまま意向として記入し、ニーズや目標、サービス内容を提携している医療スタッフと話し合っケアプランを検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りや職員会議のとき心身状況、会話などの情報を伝え介護計画、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化を看護師に相談して、かかりつけ医に連絡してアドバイスをもらい受診、往診、薬受けの代行をしている。その都度家族へ状態報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回の運営推進会議で夏祭り、餅つき大会や秋祭りなど地区の方々に行事の協力、協働で楽しさを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医になっている。家族の受診同行、また職員も同行することもある。かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるようにしている。	協力医に転院される方が殆どで、24時間に対応してくれる。定期往診の他に希望者には、歯科往診もある。他科受診は、原則家族が付き添っているが、状況を鑑みて職員が受診を介助することもある。看護師である職員が管理者と主に医療連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れて十分な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との入院時の情報交換はできている。対応可能な段階で早期に退院ができるよう医師と相談する機会をもっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と家族又は職員で連携をとり十分な話し合いをし、納得できる介護、支援をしている。	入居時に家族感情に併せて今後の方針を話し合っている。昨年は1人看取りを行った。看取り期には提携医と連携して、万全の状態でのケアに入る。また、職員同士でねぎらいや振り返りを行い、次に生かせることを語り合っている。	利用者に心から寄り添っている日常や生活を、家族に伝えてはいかがでしょうか？
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは掲示し会議や休憩時間も職員同士で話し合いはできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回入所者とともに訓練している。運営推進会議で地区の協力をお願いしている。	火災と水害地震の訓練を昼夜を想定してテーマを決めて実施。避難経路や誘導方法を確認しながら利用者と共に訓練している。管理者の兄弟が地元の消防団員なので、無理が言える関係が築けている。備蓄は、日ごろの食材に缶詰や保存性の高い食材を多く盛り込んで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の日頃の行動や性格、言動を把握し性格を把握し対応している。	呼称は、苗字に『さん』付けだが、利用者の価値観や状況に併せて、家族と相談した上で、利用者の好む呼び方で呼ぶこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせて要望を聞き職員と相談して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせて要望を聞き職員と相談して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談したり、家族に以前の事を聞いたりし季節に合った服装をして頂いて、一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜や季節を感じられる献立をたて野菜の皮むきやしょうやくをして頂く。	三食手作り。社長自前の田畑で取れた作物を献立に取り入れ、季節を感じられるように旬のものを提供している。利用者は配膳下膳や食材を切ったりする事も日常茶飯事で楽しんでいる。誕生日や記念日には、バラずしや赤飯を作っている。また、おやつにプリンが大好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など経過記録に記入し把握している。体調に合わせて刻み、粥、ペーストなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の状態に応じた歯磨きの声掛け誘導している。入れ歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を付けて個人のトイレサイクルを把握しトイレ誘導や声掛け、パット交換を行っている。	排泄のサインを見逃さず、小まめに言葉をかけ、トイレ誘導をして自立を促している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。失敗されても、周りに気付かれぬ様な言葉をかけをしている。ランニングコストを意識して、効果的かつ経済的に衛生材料を使う様にモニタリング時に話し合う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳と一日の水分摂取をもらう声かけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一回は入浴していただいている。希望も聞き体調に合わせた入浴方法にしている。便や尿で汚れた時には続いて入って頂いている。	2日に1回。主に午前に入浴していただくが、希望者には午後でも対応している。浸かることが難しい場合は、シャワー浴、手浴足浴で対応している。コミュニケーションを取り易い時でもあるので、楽しく入浴してもらう様に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じ休憩をしていただき、夜間ぐっすり眠れるように日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用量の変更の際は主治医、看護師、職員と連携支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった得意なことを発揮してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外気浴や散歩に出掛けている。その際地域のひとと話をしたりあいさつをする。	のびのびとした敷地を活用して、コロナ禍でも運動がてらに敷地内に日ごろから出向き、日向ぼっこをしたり、付き添いで散歩をしたりして、昔を思い出せるように外出を楽しめている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいもの等訴えがあれば家族に依頼し買ってもらっている。行けるときには職員と一緒に買い物に外出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えがある際は電話を使用してもらっている。家族、友人からの手紙等もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵などを入所者と一緒に作成している。気の合う利用者同士を並べく近くにしている。	季節を感じる制作物がポイントポイントに掲示されており、天窓からの陽射しが、目に鮮やかなホールを照らしている。利用者や職員の皆で歌を歌ったり、塗り絵やゲームをする趣が映え、どこからでも見守れ、生活音と共に、和やかなムードが奏でられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを置き、居場所の工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく写真や置物を飾り心地よい空間、雰囲気作りをしている。	各居室ともベッドとクローゼット、収納ボックスが備え付けられ、フローリングの居室に3畳の畳を敷き布団で生活する利用者もいる。好きな写真や丹精込められた制作物に囲まれ過ごしている。多角的に安全性に配慮したレイアウトで居心地の良さの中に溶け込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなどを設置している。		